

# ぐるっと三瓶 ミニツアー

**本日運行!**

三瓶山のみどころをバスでご案内!

出発時刻 **11:00**

所用時間 約1時間30分

集合場所 バスに乗ってお待ち下さい

参加方法 10:30から、整理券を配布します

料金 **無料**

5月10日は  
**地質の日**

5月10日は**地質の日**  
「地質の日」関連イベント

## 「地質の日」特別企画のお知らせ

～5月10日(土)は島根大学へ行こう!

### 山陰・島根ジオサイト 地質百選シンポジウム



- 日時：5 / 10 (土) 13:30～16:40
- 会場：島根大学総合理工学部 3号館 2階 多目的ホール

#### ープログラムー

- 13:30-13:40 開会挨拶
- 13:40-14:10 島根県の地質のあらましと島根のジオサイト 50 の発表
- 14:10-16:20 島根県のジオサイト紹介  
(15:10-15:20 休憩)
- 16:20-16:30 島根のジオサイト残り 50 の募集
- 16:30-16:40 閉会の辞

- 申し込み不要 参加無料



### 隠岐産黒耀石による石器作り体験教室

山陰・島根の50のジオサイトに選ばれた隠岐産黒耀石を使って、古代人が作ったものと同じ石器を作ってみます。◆教室開催時間：5 / 10 (土)

第1回目：13:00～14:30

第2回目：15:00～16:30 \*各回の定員は20名

- ◆会場：島根大学総合理工学部 3号館 3階 セミナー室
- ◆対象：小学生～大人

(小学校1・2年生の場合は保護者の方の同伴でご参加下さい)

- ◆参加方法：事前申し込みが必要です(各回**先着順**)

☆申し込み〆切：5 / 8 (木) 17:00

☆申込先：野辺一寛(隠岐・風待ち海道倶楽部)

電話：(08512)-2-8564 Fax：(08512)-2-2460

携帯電話：(090)-4144-8673

e-mail：nobe-k0123@e-oki.net

参加希望の回や参加される方のお名前等お伝え下さい

- ◆参加費用：保険料のみご負担下さい(お一人50円)

- ◆指導：八幡浩二(隠岐の島町・八幡黒耀石店)



このイベントに関する総合連絡先：

赤坂正秀(島根大学総合理工学部)

TEL/FAX 0852-32-6455

Email akasaka@riko.shimane-u.ac.jp

主催団体

島根県地質百選選定委員会

隠岐・風待ち海道倶楽部

島根大学総合理工学部  
地球資源環境学科



## いわみ 石見銀山

### ジオサイトの特徴やみどころ

石見銀山の銀鉱床は、島根県の中央部にあたる大田市の南西部に位置し、仙ノ山を中心とする東西約2 km、南北約1 kmの範囲に分布しています。ここには、これまで約600カ所以上の銀の採掘跡（開採）が確認されています。これらの開採のうち、現在大久保開歩（写真1）と龍源寺開歩（写真2）が一般公開されています（大久保開歩の見学には事前予約が必要です）。



写真1：石見銀山開歩の中で最大級の大久保開歩。代官舎が奥に建って開採に入っている。



写真2：龍源寺開歩が深い谷間に沿って掘り進んだ。

石見銀山の発見は、歴史上、1309年に開防国の大内氏が最初といわれていますが、1526年に神屋寿禎による銀山開採が始まり、1533年に「灰吹き法」が伝わり、急速に開採が進められました。最大の銀の産出がみられたのは江戸時代初期で、この頃徳川家に納められた運上銀は、年間13.5t、年間の総生産量は、67.5tに達したと推定されています。その後、産銀量は減少し、江戸時代後半には年間数100kgにすぎなくなるとなりました。そしてその後、銅鉱山として再開されたものの、1923年には休山してしまいました。さらにその後、何度か再開発をめぐし、1943年には事業化もされましたが、水害等により閉山し、今日に至っています。

石見銀山一帯の地域には、第四紀更新世（200万年～70万年前）に活動した火山群（大江高山火山群）が分布しています（図1）。この火山群は、安山岩～デイサイト質の溶岩・火砕岩からなる溶岩円頂丘群で、急峻な山麓斜面と比較的平坦な山頂部を特徴としています。1872年には、茨田地震の被害により、多くの坑道が使用できなくなり、銀山の経営が困難な新世から第四紀更新世に堆積した海成・陸成堆積物からなる都野津層が分布し、さらにその下には、新第三紀中新世の火山岩と火砕岩類、堆積岩類が分布しています。



図1：石見銀山周辺の地質（島根県立三田岳地質学センター資料より）



### 所在地とアクセス方法

#### ●島根県大田市大森町が地域内

→JR大田市駅よりバスで約20分  
代官所前下車すぐ石見銀山遺跡。

→自家用車の場合は、県道二戸瑞穂（大田市大森町地内）から石見銀山公園駐車場または世界遺産センター駐車場へ5分。

\*龍源寺開歩…石見銀山公園駐車場から徒歩約30分

\*大久保開歩…世跡遺産センターからシャトルバス20分、徒歩15分。  
または市道高田橋駐車場から徒歩15分。

- ①石見銀山遺跡（旧開採跡）
- ②石見銀山公園（旧開採跡）
- ③大久保開歩
- ④龍源寺開歩
- ⑤龍源寺開歩センター（駐車場あり）
- ⑥石見銀山公園センター
- ⑦市道高田橋
- ⑧石見銀山公園
- ⑨龍源寺開歩
- ⑩石見銀山公園

国土地理院発行 1:25,000  
地形図（1:25,000）を参照

### 関連する見学場所と情報

石見銀山資料館 <http://fshmiradene.jp/silver/>

石見銀山世界遺産センター <http://fshmiradene.jp/silver/>

島根県世界遺産登録推進室 <http://www.pref.shimane.jp/sekaisan/>

文獻：赤坂・牧・鳥越(2007) 島根大学地球資源環境学術報告特別号、1-7。

### 記念物指定など

平成19年7月3日 ユネスコ世界文化遺産

### 地質学的な意義

石見銀山は、大江高山火山群の火山活動を引き起こしたマグマから発生した熱水によって約100万年前にできた鉱床です。石見銀山の銀鉱床は、銅脈鉱床である永久鉱床と銅染鉱床である福石鉱床からなります。銅を多産したものは、福石鉱床です。

福石鉱床の主な銀鉱物は、輝銀鉱、自然銀などの比較的単純な銀化合物ですが、永久鉱床の銀鉱物は、輝銀鉱、自然銀の他に、銅やビスマスなどの元素との複雑な化合物として産出します（赤坂ほか、2007）。

5月10日は  
**地質の日**

**地質の日の由来**

5月10日は、明治9年(1876)、ライマンらによって日本で初めて成り立つ地質図、200万分の「日本地質図(地質図)」が作成された日です。

また、明治11年(1878)のこの日は、地質の調査を扱う組織(内務省地質局地質課)が定められた日でもあります。

# 地質の日パネル展

— 地質と生活・産業との係わり —

- 鉱業・
- 地質環境・
- エネルギー・
- 防災・
- 林業・
- 宅地・
- 観光業・
- 農業・
- 工業・
- 流体資源・
- 水産業・



地質と生活との係わりについて、  
上と下を線で結んでみましょう!  
回答者には記念品をプレゼント♪

と き：5月8日(木)～9日(金)  
と ころ：道庁1階 道民ホール

主催：北海道立地質研究所

協力：(独)産業技術総合研究所 地質調査総合センター・北海道大学総合博物館

(社)北海道地質調査業協会・(社)全国さく井協会北海道支部・遠軽町・壮瞥町・様似町

